

南イタリア中世壁画群 診断調査プロジェクト 研究調査報告書 2010年度

宮下孝晴*・宮下睦代**

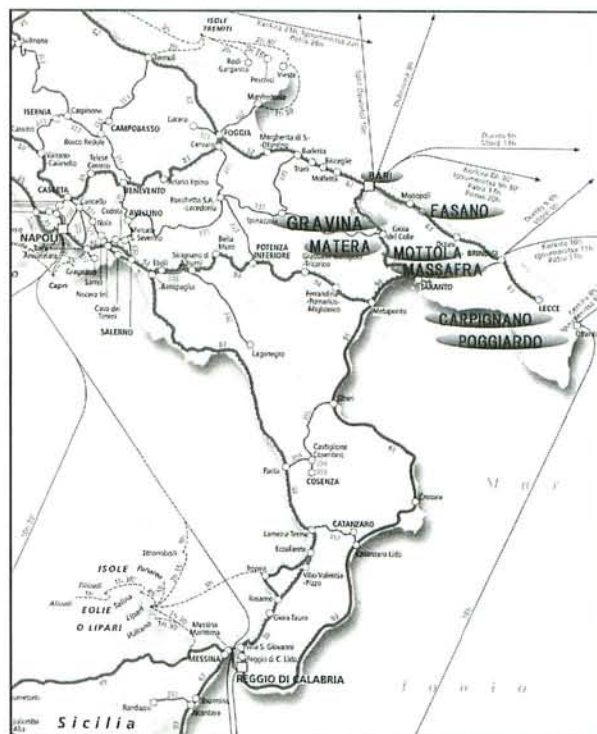
Analysis-Research Project on the Medieval Cave Churches in South Italy:
Report of Pre-field Researches

Takaharu MIYASHITA* & Mutsuyo MIYASHITA**

- ◇ 第一次予備調査実施日：2010.08.29～09.01 Regione Puglia
- ◇ 第二次予備調査実施日：2010.09.12～09.15 Regione Puglia
- ◇ 第三次予備調査実施日：2011.01.16～01.18 Regione Basilicata

◇◇◇ 調査地リスト ◇◇◇

- No.01 Chiesa di S.Vito Vecchio
- No.02 Chiesa di S.Michele delle Grotte
- No.03 Chiesa di Padre Eterno
- No.04 Chiesa Grotta S.Arcangelo
- No.05 Chiesa di S.Maria degli Angeli
- No.06 Chiesa di S.Nicola
- No.07 Chiesa di S.Angelo
- No.08 Chiesa di S.Gregorio
- No.09 Chiesa della Madonna della Candelora
- No.10 Chiesa di S.Cristina
- No.11 Chiesa dei SS.Stefani
- No.12 Chiesa di Seppannibale
- No.13 Chiesa di Lama d'Antico
- No.14 Chiesa di S.Giovanni
- No.15 Chiesa di S.Lorenzo
- No.16 Convicinio di S.Antonio
- No.17 Chiesa della Madonna delle Virtu'
- No.18 Chiesa di S.Lucia alle Malve
- No.19 Chiesa della Madonna de Idris e S.Giovanni in Monterrone
- No.20 Chiesa (Cripta) del Peccato Originale



☆ **keywords:** mural painting, Middle Ages, cave-church, South Italy, conservation

壁画、中世、洞窟教会、南イタリア、保存

* 金沢大学 人間社会研究域 人文学類教授 フレスコ壁画研究センター長

** 金沢大学 人間社会研究域 フレスコ壁画研究センター客員研究員

緒言

南イタリアの洞窟教会に描かれた中世壁画群の診断調査プロジェクト

1990年、鹿島美術財団による研究助成を受け、私（宮下孝晴）が南イタリアの中世壁画群を調査してから20年の歳月が流れた。フィレンツェのルネサンス美術を研究していた私がなぜ、突然に研究フィールドを南イタリアに移したかといえば、それは「フレスコ画法のルーツを求めて」であった。石灰岩を焼いて粉末にした生石灰を水に浸けて消石灰とし、それで漆喰モルタルを壁に塗り、漆喰が乾かぬうちに（いかなる接着剤も混ぜないで）水だけで溶いた絵具で描写すると、漆喰は空気中の二酸化炭素と化合して、もとの石灰岩（炭酸カルシウム）に戻るというフレスコ壁画の化学的原理の発明は決して一朝一夕にできるものではない。どんな絵画法よりも明るく耐久性のあるフレスコ画法の発明は、したがって1人の画家の手になるというよりは、長い試行錯誤の結果であると考えられる。歴史を遡って壁画法の改革という観点で研究するには、研究フィールドを南にずらす必要があった。なぜなら、イタリアでは常に新しい文化は半島を北上してきたという歴史があるからである。

しかし、研究フィールドを南イタリアに移した私がそこで目にしたのは、歴史から忘れられて荒廃した中世の教会や修道院の無残な姿であった。洞窟教会などに描かれた中世壁画群は1960年代に一定の学術調査が実施されたとはいえ、歴史的文化財としての保存や修復の対象としてクローズアップされることのないまま消滅の時を間近にひかえていた。

南イタリアはキリスト教文化研究の視点からみても、東方からのギリシア正教とベネディクト修道会によるローマカトリックが混交し、イタロ・ビザンティン様式の美術を展開したところで、洞窟教会(chiese rupestri)の建築や壁画には美術史的にも多くの興味深いテーマを見出すことができる。とくにアドリア海側のプーリア州では、東ローマ（ビザンティン）帝国でイコノクラスム（聖画像を偶像とみなした破壊運動）の嵐が吹き荒れた8-9世紀以降、多くの修道士たちが渡来し、カッパドキアにも似た凝灰岩質の渓谷や台地を掘り抜いて、多くの洞窟教会や修道院を建設した。

南イタリアの中世壁画群の歴史的重要性に注目する金沢大学は、日伊共同で取り組んできたフィレンツェのサンタ・クロチェ教会壁画の修復プロジェクトの成功実績に基づき、文部科学省の特別経費を得て、国立フィレンツェ修復研究所と連携協

力し、南イタリアの中世壁画群の調査・研究を実施することになった。2010年5月、新プロジェクトの拠点である「フレスコ壁画研究センター」が金沢大学人間社会研究域に設置されて、国立フィレンツェ修復研究所との合意書の調印も済み、ここに金沢大学の新たな挑戦 - 人文系、芸術系、工学系、医薬系などの多岐にわたる分野の研究者がともに取り組む画期的な挑戦が4年計画でスタートした。高精細デジタル撮影のほか、3Dスキャナや赤外線サーモグラフィ、色差計、水分計、マイクロスコープなどの最新の科学計測機器を用いて分析診断された壁画の現状は、デジタル・アーカイブ（データベース）に記録される。

ここに掲載する南イタリア全20カ所の洞窟教会は、2010年8-9月と翌2011年1月に実施した前後3回にわたる予備調査の報告レポートである。

《主要参考文献》

- ・ Aldo Messina & Franco Dell'Aquila, *Le Chiese Rupestri di Puglia e Basilicata*, Mario Adda Ed., Bari, 1998
- ・ Giuseppe Navedoro, *Le Chiese Rupestri di Gravina in Puglia*, Il Grillo Ed., Gravina in Puglia, 2006
- ・ Maria Luisa Semeraro Herrmann & Raffaele Semeraro, *Art of Rupestrian Civilization in Fasano during The Middle Ages*, Schena Ed., Fasano, 2005
- ・ Antonio Chionna, *Gli insediamenti Rupestri della Provincia di Brindisi*, Schena Ed., Fasano, 2001
- ・ Comitato organizzatore della pro-loco di Massafra, *Chiese Cripte e Insediamenti Rupestri del Territorio di Massafra*, Ente provinciale per il turismo, Taranto, 1966
- ・ Comitato organizzatore della pro-loco di S.Vito dei Normanni, *Chiese, Cripte e Insediamenti Rupestri del Territorio di S.Vito dei Normanni*, Schena Ed., Fasano, 1968
- ・ C.D.Fonseca ed altri, *Gli Insediamenti Rupestri Medievali nel Basso Salento*, Galatina Congedo Ed., Galatina, 1979
- ・ Gianclaudio Macchiarella, *Il Ciclo di Affreschi della Cripta del Santuario di Santa Maria del Piano presso Ausonia*, De Luca Ed., Roma, 1981
- ・ Anna Carotti, *Gli Affreschi della Grotta delle Fornelle a Calvi Vecchia*, De Luca Ed., Roma, 1974
- ・ Rosalba Zuccaro, *Gli Affreschi nella Grotta di San Michele ad Olevano sul Tusciano*, De Luca Ed., Roma, 1977

No.01	サン・ヴィート・ヴェッキオ教会	Regione 州	Puglia
Pug.01	Chiesa di S.Vito Vecchio	Comune 市町村	Gravina in Puglia
<p>① 理的位置 グラヴィーナ・イン・プーリアの旧市街地の南、フォルナーチ地区で、スカレーゼが所有する農園の中にある。</p> <p>② 建築に対する所見 高い天井 (3.95m) をもつ単廊式の教会で、巨大な後陣 (3.28m × 3.80m)、左側壁 (2.00m × 4.92m)、右側壁 (2.30m × 5.80m)、内部にはぐるりと台座 (stilobate) が設けられている。後期ローマネスク様式の洞窟建築物の一例で、堂々としたファサードをもち、中央には装飾縁のある入口、その両側にはアーチ状装飾の盲窓の中に明かり取りのための窓が設けられている。</p> <p>③ 壁画に対する所見 一連の壁画はプーリア州の画家によるもので、12世紀末から13世紀初めとされる。広い後陣には、4人の天使が支えるマンデルラの中に、玉座に座る巨大な「パントクラトールのキリスト」が描かれている。左側壁には、入口から「聖ピエトロ」「聖ラザロ」「聖ヤコブ(大)」「聖バシリウス」の4人の聖人、続いて「墓の前の天使と3人のマリア」のシーンが描かれている。また、その下のアーチのそばに跪く人物像がかろうじて見ることができ、おそらく注文主であろう。右側壁には、入口から「アレクサンドリアの聖女カタリナ」「幼子イエスを抱く聖母マリア」「聖バルトロマイ」「バーリの聖ニコラウス」「聖女マルガリタ」が描かれている。それに続き、2人の聖人が描かれているが損傷が激しく、文字も判読しづらい。おそらく、右の若い聖人が聖コスマス、左のひげを生やし司教冠をかぶった聖人が聖クリストフォルスと考えられている。</p> <p>④ 保存状況 1956年に国が買い取り、1958年にローマの中央修復研究所が壁画をマッセッコ法で切断して移動、修復された。1968年にグラヴィーナ・イン・プーリアにあるエットーレ・ボマリチ・サントーマジ財団博物館内に、元の教会と同じ建築空間が作られ、再構築された。温度・湿度が調整された環境の中で保存されてきたため、20年前に訪れた時と変化はなく、移築後の劣化はほとんどないようである。</p>		   	
<p>平面図</p> 			

No.02	サン・ミケーレ・デッレ・グロッテ教会	Regione 州	Puglia
Pug.02	Chiesa di S.Michele delle Grotte	Comune 市町村	Gravina in Puglia

①地理的位置

グラヴィーナ・イン・プーリアの旧市街地の南西。
 フォンドヴィーコ地区を流れる急流によって掘られた深い峡谷の断崖にできた、なかなか近づくことのできない自然の洞窟にある。

②建築に対する所見

広い五廊式の教会で、天井は平ら、4つの後陣が設けられており、内陣は1段高くなっている。列柱はすべて1つの岩を削りぬいて作られており、中央の2本の柱は取り除かれて、広い空間が設けられている。また、崖の斜面側に開けられた窓からの採光が工夫されている。

③壁画に対する所見

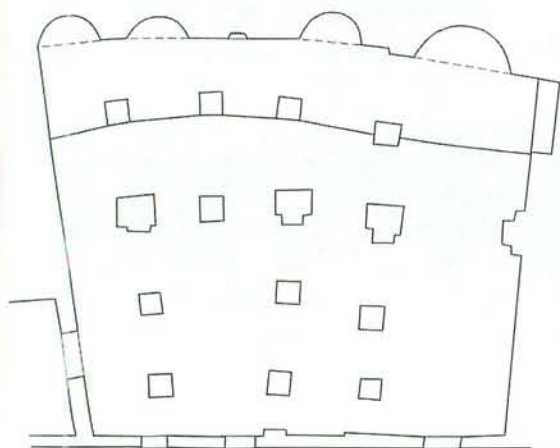
湿気や破壊行為などにより、12-15世紀に描かれた壁画はわずかしが現存しない。左第1側廊の後陣部分には、左手に福音書を持って右手で人々に祝福を授ける「パントクラトールのキリスト」、その両側に大天使聖ミカエルと聖パオロの像がかすかに残っている。また、手前の柱には「聖母子」と思われるわずかな断片、奥の柱には「十字架降下」がかすかに見られる。

④保存状況





2006年に修復の記録を示すパネルがあるが、最小限の処置だったらしく壁画の傷みは激しい。実地調査の際も、小さな昆虫がびっしりと壁面を覆っていた。





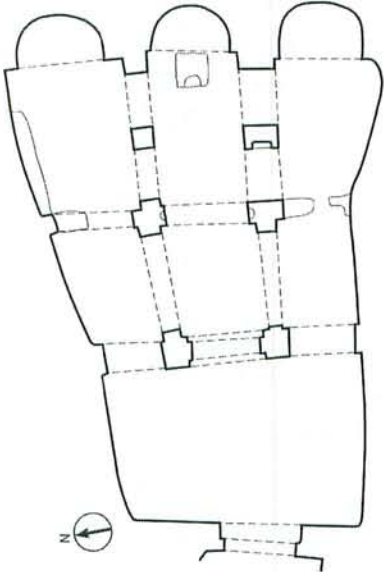


平面図




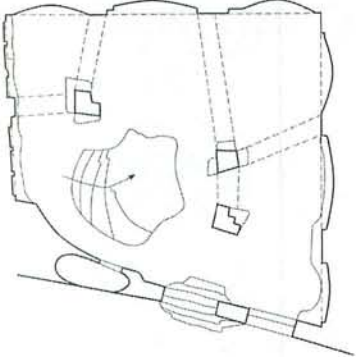


No.03	パードゥレ・エテルノ教会	Regione 州	Puglia
Pug.03	Chiesa del Padre Eterno	Comune 市町村	Gravina in Puglia
<p>①地理的位置 グラヴィーナ峡谷を挟んで旧市街地の反対側（西側）に広がる凝灰岩台地にある。</p> <p>②建築に対する所見 後陣を備えた二廊式的设计となっているこの教会は、後陣部分が未完成である。 長軸に対して横から身廊部の入口へ直接に下る階段があり、広い後陣のくぼみには壁画の断片が残っている。身廊の左側上部には3つの半円アーチが残っているだけで、アーチを支える2本の柱は消失している。</p> <p>③壁画に対する所見 後陣のくぼみには「パントクラトールのキリスト」を中心に、向かって左にはおそらく聖母マリア、右には福音書記者聖ヨハネと思われる壁画断片が残っている。</p> <p>④保存状況 凝灰岩の岩肌には地上からの植物の根が張り出してきていたり、湿気が多いせいかわ、緑色の苔のようなものが壁面の下半分ぐらいを覆っている。同行の同市文化担当官の話によれば、(彼の少年時代) 40年ほど前には奥の側廊壁面には壁画を見ることができたというが、現在ではその痕跡すらない。</p>			
			
			
			
<p>平面図</p> 			

No.04	グロッタ・サントルカンジェロ教会	Regione 州	Puglia
Pug.04	Chiesa Grotta S.Arcangelo	Comune 市町村	Gravina in Puglia
<p>①地理的位置 グラヴィーナ峡谷を挟んで旧市街地の反対側（西側）、石造の高架橋のたもとにある。</p> <p>②建築に対する所見 現在、ここは個人の所有で、物置として使われているが、調査では特別に見学させてもらった。後世に床を掘り下げたものか、手前半分くらいの天井は高い。奥の方は、いわゆるロフトようになっていて、簡単に石を積んで階段としている。入口のアーチ上部は、切り出した凝灰岩を積み上げてふさいでいた。</p> <p>③壁画に対する所見 階段を上るとかなり広い空間があり、壁龕には聖人像の一部、聖母子像らしき壁画の断片がかすかに残っている。この洞窟教会には大天使（Arcangelo）の名がついているが、内部の壁面にそれらしき画像の痕跡は見られなかった。</p> <p>④保存状況 歴史的文化遺産としての価値を認めて管理されているわけではなく、洞窟教会が教会としての役割を終えて廃れた後、個人の住居や納屋等として現在まで使われてきた歴史の変遷を感じた。壁龕には聖人像の一部、聖母子像らしき壁画の断片がかすかに残っているが、傷みが激しい。</p>		   	

No.05	サンタ・マリア・デッリ・アンジェリ教会	Regione 州	Puglia
Pug.05	Chiesa di S.Maria degli Angeli	Comune 市町村	Gravina in Puglia
<p>①地理的位置 グラヴィーナ・イン・プーリアの旧市街地の北側のはずれ、グラヴィーナ峡谷にかかる高架橋の町側のもと、フォンターナ通りの下に位置する。道路沿いの石壁に設けられた鉄格子の扉を開けて、ゆるい坂道を下ったところにある。</p> <p>②建築に対する所見 洞窟教会の手前には広いナルテックスらしき痕跡があり、3つの後陣をもった堂内の空間は、掘り抜かれた4本の角柱で区切られている。</p> <p>③壁画に対する所見 残存する壁画としては、中央の後陣、曲面部に「パントクラトールのキリスト」が持つ福音書らしきものがかすかに見られるのみである。</p> <p>④保存状況 閉鎖的で奥の深い室内は、かなり湿度が高く、壁面も柱も一面緑色の苔で覆われている。壁画の保存状態はきわめて悪く、消滅寸前と言ってもいいほどである。</p>			
			
			
			
<p>平面図</p> 			

No.06	サン・ニコラ教会	Regione 州	Puglia
Pug.06	Chiesa di S.Nicola (di Casalrotto)	Comune 市町村	Mottola
<p>①地理的位置 モットラ市街から南西に3kmのカザルロットにある。カザルロット農園から広い自然公園を抜け、グラヴィーナ峡谷への階段を下りたところにある。</p> <p>②建築に対する所見 入口の上にある二重アーチで縁取られたルネッタには、聖人像を描いた壁画がかすかに残っている。その右側には、この教会設立に貢献した人物の墓と思われるアルコンソリウム（アーチ型墓所）がある。堂内は方形台座の上に立つ2本のどっしりとした角柱がアーチを連結し、その奥には3つのアーチをもつイコノスタシス（もとギリシア語で「イコンを掛ける所」の意、信徒のための身廊部と聖職者のための内陣を仕切るイコンの掛け並べた障壁）で分けられた聖職者席が設けられている。</p> <p>③壁画に対する所見 堂内の壁面や柱、トリフォリウム（教会内部のアーチの上にある装飾的アーケード）には、華やかな色彩の壁画がかなりよく残されており、「洞窟文明のシステーナ礼拝堂」と呼ばれている。広い後陣中央に描かれている「パントクラトールのキリスト」、両脇の「聖母マリア」、「洗礼者聖ヨハネ」は13世紀初めのもので、壁に沿って作られた12の壁龕には、「白馬にまたがった聖ゲオルギウス」や「聖ピエトロ」「聖女ヘレナ」「聖母マリア」「聖ニコラウス」などの聖人像が見られるほか、11世紀に描かれた壁画装飾の上に14-15世紀の壁画が塗り重ねられている。</p> <p>④保存状況 1990年に修復されているため、保存状態は非常によい。</p> <p>平面図</p> 		   	

No.07	サンタンジェロ教会	Regione 州	Puglia
Pug.07	Chiesa di S. Angelo (di Casalrotto)	Comune 市町村	Mottola
<p>①地理的位置 モットラ市街から南西に3kmのカザルロットにある。モットラからパラジャーノへ向かう市道沿いに位置する。</p> <p>②建築に対する所見 地下にもう1つの階をもつ、プーリア州では唯一の二層式構造の教会である。この建築様式はビザンティン世界では一般的で、カッパドキアで数多く見られる。8世紀から9世紀にかけて建設されており、入口は2カ所ある。最初の入口の左側には、水をためる井戸があり、右側の入口は二重のアーチで飾られている。堂内は1つの岩を削りぬいた3本の角柱で分けられており、中央の床面の半分は地下への階段で占められている。左側廊は他の2つよりも深く掘られているが、これは歴史・考古学者によると、葬式を行うための地下礼拝堂へ導く一種の階段のような役割を果たしているという。身廊の天井については2方向へ傾斜した細長い蛇腹が特徴的で、側廊の天井には十字に交差した浅いリブ装飾が見られる。地下の空間は上よりも狭く、やはり3本の角柱で分けられている。</p> <p>③壁画に対する所見 上の階にも下の階にも、後陣や柱、壁龕などに、多くの聖人像などの壁画が残っている。13世紀の「キリストの洗礼」、「聖ゲオルギウス」、14世紀の「デエシス」などが確認できる。入口上の天井には聖ヨハネの象徴である聖書をつかんだ鷲が描かれている。</p> <p>④保存状況 何層にも塗り重ねられた壁画は13-14世紀のものであるが、壁画の損傷は非常に激しい。</p>		   	
<p>平面図</p> 			

No.08	サン・グレゴリオ教会	Regione 州	Puglia
Pug.08	Chiesa di S.Gregorio	Comune 市町村	Mottola
<p>①地理的位置 モットラ市街が広がる丘の東斜面、市道沿いにある。</p> <p>②建築に対する所見 内接ギリシア十字型プランの教会で、ジュルディニャーノのサン・サルヴァトーレ洞窟教会を真似たものであるが、身廊の長さや側廊の天井などにいくらかの違いが見られる。掘削されたのは9-10世紀で、長さ7m、幅8m、三廊式で3つの後陣をもつ。内部は、半円柱を十字形に束ねた4本の太い基柱で分けられ、柱頭の二重の平縁からアーチが形成されている。天井は、見せかけの骨組みが注意深く彫られたもの、見せかけの勾配をもつもの、十字架の象徴を凹凸で表したドーム、2つの同心円をかたどったドームなどがある。そのうち1つのドームは崩壊したため、現在は石板で覆われている。</p> <p>③壁画に対する所見 後陣中央には13世紀末に描かれた「パントクラトールのキリスト」、壁面には「聖母子像」や「聖ニコラウス像」が残っている。</p> <p>④保存状況 パネルには、「2008-09年にかけて、壁画保存のための修復が行われた。表面の沈着物の除去、炭酸塩化、硫酸化した部分の除去、描画層とイントーナコ（上塗り漆喰）部分の固着作業、亀裂や欠損部分を漆喰で補填する作業が行われた。」とあるが、かなり傷んでいる。</p>		   	
<p>平面図</p> 			

No.09	マドンナ・デッラ・カンデローラ教会	Regione 州	Puglia
Pug.09	Chiesa della Madonna della Candelora	Comune 市町村	Massafra
<p>①地理的位置 マッサーフラ旧市街地にあり、現在は個人所有となっている庭を抜け、崖下へ続く急な階段を下りたサン・マルコ峡谷の西側の崖を掘って建設された。</p> <p>②建築に対する所見 手前の柱は崩れてアーチの上の部分しか残っていないが、中に2本の角柱があり、横幅8.50m、奥行き6mの空間を6つに分けている。天井のデザインはそれぞれ異なっており、平らなもの、2方向へ傾斜したもの、4方向へ傾斜したものがあり、特に左奥は、四角の空間を百合の花びらのような持ち送りで八角形にかえてレンズ状のドームを形成している。</p> <p>③壁画に対する所見 アーチ型の壁龕が連続する壁面には、13-14世紀の壁画が残っており、ギリシア語とラテン語の銘記がある。右端は「神殿奉獻」で、壁画の制作年代としてはもっとも古い。続いて「幼子イエスを連れた聖母マリア」、正面の壁には「聖ステパノ」「巡礼者の聖ニコラウス」「聖カタルド」「パールの聖ニコラウス」「聖母子と聖マタイ」、左側の壁には「聖ヨハネ」「聖ピエトロ」「聖アントニウス」「聖マルコ」「祈りの聖母マリアと幼子キリスト」が描かれている。</p> <p>④保存状況 右面の壁画はわりあい良く残っており、中でも右端の「神殿奉獻」の保存状態は良い。それに反して、正面と左面の壁画は傷みが激しい。</p> <p>平面図</p> 		   	

No.10	サンタ・クリスティーナ教会	Regione 州	Puglia
Pug.10	Chiesa di S.Cristina	Comune 市町村	Carpignano Salentino
<p>①地理的位置 もともとは人里離れた位置に建てられていたが、しだいに教会を中心に都市が形成されて、現在はカルピニャーノ・サレンティーノ市のほぼ中心に位置する。</p> <p>②建築に対する所見 鉄格子の柵で囲まれた教会前の小さな空間には、地下に下りる2つの入口のために、張り出した玄関のような建物がある。そこから石の階段を下りると、4本の太い角柱で分割された広い空間がある。階段を下りた右側は聖女クリスティーナに、左側は聖女マリーナに捧げられた教会となっている。そのため、サンテ・マリーナ・エ・クリスティーナ教会 (Chiesa delle Sante Marina e Cristina) とも呼ばれる。</p> <p>③壁画に対する所見 堂内には多くの壁画があり、上下に引き伸ばされた肩幅の狭い細身の聖人像が横一列に並ぶ。「聖テオドルス」「聖ニコラウス」「聖女クリスティーナ」は、11世紀に描かれたものである。右の小さな後陣の壁龕に描かれた「玉座のキリスト」にはギリシア語で年記と署名があり、壁龕の左側に描かれた「聖母マリア」と右側に描かれた「大天使ガブリエル」がセットになって「受胎告知」の図像となっている。この「玉座のキリスト」は959年に Theophilaktos が描いたという年記から、プーリア州でもっとも古い壁画とされる。「聖母子」の隣のキリストも年記と署名から1020年に Eustathios が描いたものであることがわかる。</p> <p>④保存状況 画面は全体に半透明の膜がかかったように曇っているものの、保存状況はきわめて良いと言える。20年前に訪れた時に撮影した写真で詳細に比較したわけではないが、地元の保存研究グループが環境に注意を払っているせいか、それほど大きな劣化はないという印象を受けた。</p>			
			
			
			
<p>平面図</p> 			

No.11	サンティ・ステファニ教会	Regione 州	Puglia
Pug.11	Chiesa dei SS.Stefani	Comune 市町村	Poggiardo (Vaste)
<p>①地理的位置 ポッジアルドから南へ3kmのヴァステから、さらに北東へ1.5km、サント・ステファノ農園の近くにある。</p> <p>②建築に対する所見 凝灰岩を掘り抜いて作られた横10.20m、奥行き11.40m、高さ3.10mの教会には、3つのアーチをもつ入口がある。内接ギリシア十字型プランを部分的に変更したもので、もともと入口は中央の1つであった。三廊は6本の角柱で分割され、半円形の後陣が3つ、両側には多くの壁龕が設けられている。資料にはないが、教会外壁を見ると、南側と東側は天然の凝灰岩台地の上に同質の凝灰岩の切石積みで後世に補強したと思われる。</p> <p>③壁画に対する所見 堂内に聖ステパノ像が3点描かれているため、複数形でサンティ・ステファニ教会と呼ばれている。堂内には相当量の壁画が残っているが、何層にも塗り重ねられており、最も古い部分が10世紀末、次いで11世紀のものである。右側の後陣に描かれた「大天使ミカエルとラファエルに囲まれたキリスト」、左側の後陣の「聖バシリウスと聖グレゴリウスを伴う聖ニコラウス」、左側壁の「聖ミカエル」は12世紀のものである。中央の後陣の「聖母と福音書記者聖ヨハネ」には、「ヨハネの黙示録」にある12の星が輝く円光を戴いた聖母マリアの右下に跪く注文主の家族が描かれており、福音書記者聖ヨハネの持つ本にギリシア語で書かれた文字から1376年頃の作と推測される。</p> <p>④保存状況 壁面のほとんどの描画層が剥落しかけている状態である。20年前に訪れた時と比較すると、かなり劣化が進み、「聖母と福音書記者聖ヨハネ」に描き込まれた文字も、以前は読めたものが、判読しづらくなっている。以前は建物の外は草が生い茂り、荒れ果てていたが、今では整備され、案内板が立ち、近くに市から依頼された管理人が住んでいて一般にも公開されている。まもなく、修復される予定であるという。</p> <p>平面図</p> 		   	

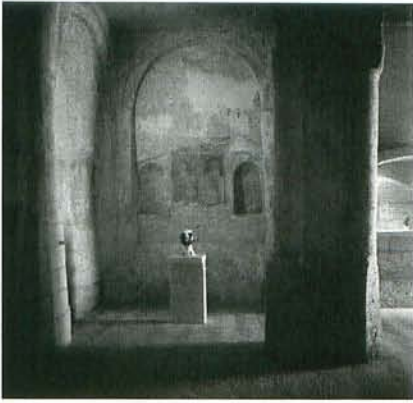


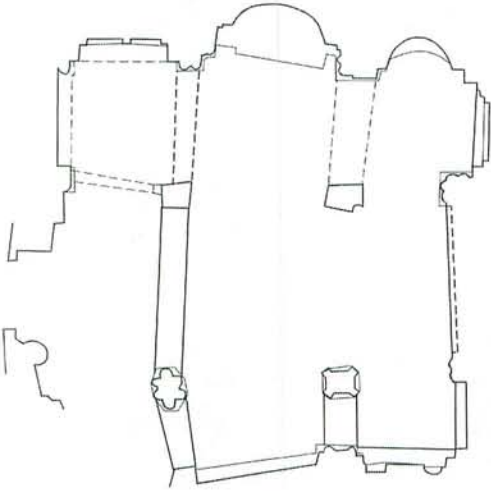
No.12	セツパンニーバレ教会	Regione 州	Puglia
Pug.12	Chiesa di Seppannibale	Comune 市町村	Fasano
<p>①地理的位置 ファザーノからモノーポリ方向へS. S. 16 号線を 4km ほど進み、海側へ方向を変えて私道を 300m ほど行くと、ファチャネッロ地区のセツパンニーバレ農園に入る。その農場主の家の反対側に広がる石垣で囲まれた平地に、石積みの小神殿風の教会が建っている。事実、地元では「小神殿」(tempietto)という呼称もある。</p> <p>②建築に対する所見 建設はおそらく 8-9 世紀に遡り、聖ピエトロ・ヴェテラーノに捧げられた教会であったと考えられているが、現在は所有者のジュゼッペ・アンニーバレ・インデッリの名から、「セツパンニーバレ」と呼ばれている。ファサードは切妻式の三角形をしており、西側と北側に 2 つの入口がある。切妻式屋根の中央部分、つまり身廊部の上には 2 つの丸屋根を載っている。平面プランはほぼ正方形で、後陣は東向きである。室内は 2 本の角柱(その他の柱は独立した柱ではなく、壁面と一体化した付け柱)で分割される三廊式で、身廊部の天井は非常に高い。</p> <p>③壁画に対する所見 おそらく、室内の壁面すべてに壁画が描かれていたと思われ、「大天使ガブリエルのザカリヤへの告知」や「ヨハネの黙示録」など、いくつかの主題が展開されていたと推測される。ただ、現在では「七枝の燭台」「翼のある女性」「竜」「エルサレムの町」「十二使徒」「聖ステパノ」などのモチーフ断片が残のみである。なお、後陣アーチには、アーチに沿ってラテン語(+ HUNC TEMPLM DI EGO)の刻文がある。壁画の制作時期は、建築と同じ 9 世紀にまで遡ると考えられる。</p> <p>④保存状況 壁画として現存するものは断片的であるが、建築としては近年修復が行われている。</p> <p>平面図</p> 		   	

No.13	ラーマ・ダンティーコ教会	Regione 州	Puglia
Pug.13	Chiesa di Lama d'Antico	Comune 市町村	Fasano
<p>①地理的位置</p> <p>ファザーノ市街から海岸のサヴェッレトウリ方向へ約3kmの位置にある。ファザーノの鉄道駅を越えてすぐ右に折れると、突き当たりに洞窟公園の入口がある。最近、公園は整備され、ボランティアの人たちによって、近くにあるサン・ジョヴァンニ教会、サン・ロレンツォ教会とともに管理されている。ラーマ・ダンティーコ教会は、その管理事務所からさらに50mほど河岸へ下りたところにある。ラーマ(Lama)は沼地、湿地帯の意。この辺りは、雨の時期だけ溪流となる谷の途中段丘とも言える岩場で、中世には多くの洞窟を利用した集落があった。</p> <p>②建築に対する所見</p> <p>長さ10.2m、奥行き6.10mで、大きさの異なる2つの身廊が並列になった形式で、長軸に対して横から身廊部に入る入口がある。(堂内への均等な採光を考慮して、プリンディジ地方の洞窟教会では長軸に対して横からの入口が比較的多い。)本来は数段の階段を上って入るが、今では渡り廊下が設置されている。中央の空間の天井は岩盤に穴をあけたドームで、もともとは瓦で覆われていたと考えられている。他の2つは、高さの異なるドーム型ヴォールトである。堂内は列柱の連続アーチで2つの身廊に区切られ、広い身廊奥の後陣の前には岩盤を直接掘り抜いた司教座がある。</p> <p>③壁画に対する所見</p> <p>壁画の制作時期は12世紀末と考えられている。周囲の側壁には連続する24の浅いニッチが割られ、各ニッチ内およびその上部にも整然と並んだ聖人像の壁画が描かれていたが、今ではわずかな痕跡を残すのみである。壁画として比較的保存状態のよいものは、広い後陣上のルネッタに描かれた「マンドルラのキリスト」のほか、「聖テオドルス」「聖ラウレンティウス」「聖母子」などである。</p> <p>④保存状況</p> <p>天井部の修復方法が適切でなかったこともあってか、当初は全壁面に描かれていたはずの壁画の損傷は激しい。凝灰岩の上に塗られた白い漆喰層が残っている場合でも、その上に描画された顔料の痕跡はまったく消えてしまっている。</p> <p>平面図</p> 		   	

No.14	サン・ジョヴァンニ教会	Regione 州	Puglia
Pug.14	Chiesa di S.Giovanni	Comune 市町村	Fasano
<p>①地理的位置 ファザーノの鉄道駅の近く、ファザーノ市街からは2kmほど離れた出版社(Shena Editore)の裏手にある。急な石段を下ると教会前が出る。この深い崖は、雨の時期だけ溪流となる谷の途中段丘とも言える岩場で、周囲には多くの自然洞窟がある。</p> <p>②建築に対する所見 教会前の左手に岩盤を掘り抜いた深めの貯水槽が発掘されているが、これは洗礼の水盤であったと考えられている。東西方向に3区画された堂内の広さは全体で11.10×4.20m、西の端にある空間は教会建築とは別。教会の平面プランで言えば、東西の長軸方向に向かって脇から入ることになるが、最初の部屋がナルテックス(玄関間)で、現在は中央の部屋との仕切りがなくなっているが、当時はアーチで仕切られていたことを示す残存部分が確認される。内陣は2段上がった高い位置にあり、イコノスタシスで仕切れ、奥に刳型の後陣が設けられている。その右には小窓があって、南からの光が差し込んでくる。</p> <p>③壁画に対する所見 20年前まで教会の名はなかったが、アントーニオ・キオンナが残っている壁画の中でもっとも保存状態のいい聖人の半身像「聖ヨハネ」の名を与えた。ナルテックスには「キリストのエルサレム入城」と「月暦」、中央の広間には「竜に槍を突き刺す聖ゲオルギウス」、イコノスタシスには「ライオンを退治するサムソン」「受胎告知」「デエシス」、アーチ上のメダイオンには「天使」が描かれている。聖人の単独像ではなく、「キリストのエルサレム入城」や「竜に槍を突き刺す聖ゲオルギウス」などの物語的場面を多く扱っている点が特筆されるであろう。一連の壁画の制作時期は12世紀末と考えられている。</p> <p>④保存状況 主題は判読できても、ディティールの判読までは難しいほど壁画全体が傷んでいる。</p> <p>平面図</p> 		   	

No.15	サン・ロレンツォ教会	Regione 州	Puglia
Pug.15	Chiesa di S.Lorenzo	Comune 市町村	Fasano
<p>①地理的位置 ファザーノ市街から海岸のサヴェッレートゥリ方向へ約2kmのところ右手に方向を変え、農道を700mほど行くとモナチェッリ農園に着く。サン・ロレンツォ教会はこの農園の近くの段丘の崖を掘って建設されており、近くにはサン・ジョヴァンニ教会がある。なお、教会の管理はラーマ・ダンティーコ教会(No.13)と同じ洞窟公園内の管理事務所が担当している。</p> <p>②建築に対する所見 ここもまた、長軸に対して横に入口が設けられている。長軸に対して左右対称の平面プランだが、実際には、ほぼ同じ大きさのバシリカ型教会を洞窟の奥にもう1つ掘り抜いて拡張したと思われる。したがって、形の異なる後陣を2つ備えることになったが、イコノスタシスで仕切られるナオス(内陣)は隔壁のない貫したスペースになっている。なお、入口近くの深い穴(3.7m)は、おそらく貯水槽として利用されたもので、洗礼用のものではなかったと思われる。</p> <p>③壁画に対する所見 左後陣及び内陣部分に描かれた聖人像の保存はよく、「洗礼者ヨハネと聖母マリアに囲まれたデエシス」「大天使ラファエル」「大天使ガブリエル」「聖ニコラウス」「聖ピエトロ」「聖パオロ」が描かれている。壁面には浅く切りぬいたニッチのほか、三幅対の祭壇面を思わせる形に掘り抜いたニッチもあり、すべて壁画で覆われていたが、損傷が激しく判読は難しい。壁画は11世紀末まで遡れるという説もあるが、近くのラーマ・ダンティーコ教会やサン・ジョヴァンニ教会との類推からすれば、もう少し遅い12世紀末の可能性が高い。全壁面を分割して描かれていた壁画面は、同じ青地の背景と赤い帯状の枠取りで統一されている点も特徴的である。</p> <p>④保存状況 入口と貯水槽の周辺の剥落や損傷は大きい。左後陣及び内陣部分に描かれた聖人像の保存はよく、人物像のディティール表現までよく残っている。</p>		   	
<p>平面図</p> 			

No.16	コンヴィチーニオ・ディ・サンタントーニオ	Regione 州	Basilicata
Bas.01	Convicinio di S.Antonio	Comune 市町村	Matera
<p>①地理的位置 バリから西に60km、グラヴィーナ峡谷に沿った岩肌の斜面に建設された洞窟都市マテラは、1993年に世界遺産として登録された。その起源は旧石器時代に遡るとはいえ、現在の洞窟住居群サッシ(Sassi)地区は8世紀から13世紀にかけて、東方(シリア、パレスチナ、カッパドキア、シチリア)からイスラム勢力を逃れた修道士たちが130以上の洞窟住居を構えて住み着いたことから独特の都市文化を発展させてきた。サッシ地区はサッソ・バリサーノとサッソ・カヴェオーゾの2つに分かれるが、この建築的に特徴ある教会(群)はサッソ・カヴェオーゾ地区の南側の端に位置する。</p> <p>②建築に対する所見 平面図を見ればわかるとおり、4つの教会が連結して1つの複合建築になっている。平面図の右から順に第1の「テンペ・カドゥーテ」(あるいは「サン・ブリーモ教会」)、第2の「サンテリージョ教会」(あるいは「アンヌンツィアータ教会」)、第3の「サン・ドナート教会」、第4の「サンタントーニオ教会」と呼ばれている。</p> <p>③壁画に対する所見 教会内の壁面の多くは12-13世紀に壁画装飾されたと考えられるが、後世に描き変えられた部分が多いだけでなく、壁画の保存状態もきわめて悪い。保存状態のよい壁画は、第2の教会に描かれている「全能のキリスト」(14世紀)、第3教会の「聖女ドロテア」(14世紀)、第4教会の「隠修士の聖アントニウス」(15世紀)などで、それ以前の壁画はほとんど残っていない。</p> <p>④保存状況 12-13世紀の壁画がほとんどなく、むしろ17-18世紀にかけてのものが多く混在している理由は、この連結教会がマテラにおいて長く、高い頻度で利用されてきたために、新たな時代とともに描き変えられてきたからと考えられる。第4教会は、教会として閉鎖された後、ワイン作りのためのブドウの压榨やワインの貯蔵に利用されていた。</p>		  	
<p>平面図</p> 			

No.17	マドンナ・デッレ・ヴィルトゥ教会	Regione 州	Basilicata
Bas.02	Chiesa della Madonna delle Virtu'	Comune 市町村	Matera
<p>①地理的位置 マテーラの北側に広がるサツ・バリサーノ地区にあり、グラヴィーナ峡谷に最も接近したサンタゴスティーノの谷間に掘られた教会で、現在はマテーラを周回するマドンナ・デッレ・ヴィルトゥ通りに面している。</p> <p>②建築に対する所見 高い崖を掘り抜いて、上下階にわたる複合建築（上のサン・ニコラ・デイ・グレチ教会と下のマドンナ・デッレ・ヴィルトゥ教会）で、かつてはベネディクト会の修道院であった。また、ビザンティン様式の内接ギリシア十字型プランに従って建設されたマドンナ・デッレ・ヴィルトゥ教会の中央部、内陣の天井は円蓋で覆われている。10-11世紀の建築であるが、1667年に修復された記録がある。</p> <p>③壁画に対する所見 創建時の10-11世紀の壁画は消失している。下のマドンナ・デッレ・ヴィルトゥ教会後陣のニッチには14-17世紀にかけての「聖母マリアと福音書記者聖ヨハネのいる磔刑図」や「聖レオナルド」像などが描かれている。</p> <p>④保存状況 ここは、かなり以前からマテーラ市のアートスペースとして利用されていて、現在でも毎年、国際彫刻展が開催され、洞窟教会の中世的で神秘的な空間と現代彫刻のモダニズムのコントラストが話題を呼んでいる。このため、壁画保存を中心とした管理はなされておらず、かろうじていくつかの主題が判読できる程度である。</p>		  	
<p>平面図</p> 			

No.18	サンタ・ルチア・アッレ・マルヴェ教会	Regione 州	Basilicata
Bas.03	Chiesa di S.Lucia alle Malve	Comune 市町村	Matera
<p>①地理的位置 サッソ・カヴェオーゾ地区を代表する洞窟教会で、サン・ピエトロ・カヴェオーゾ教会から峡谷側に回り込んだ南側にある。</p> <p>②建築に対する所見 10-11世紀に建設され、マテーラで最初のベネディクト会女子修道院として1525年まで使われた。一時は三廊式プランの教会を目指して、洞窟を掘り進めた形跡がうかがわれるが、完全な形式を整えてはいない。歴史的には右側廊のみが地区教会として1980年代まで存続し、現在でも礼拝堂として使われている。他の空間はやがて住宅として使われることとなり、それがサッシ地区の再整備が開始される1950年代まで続いた。</p> <p>③壁画に対する所見 南側の側壁を飾る8連続ニッチには13世紀後半に描かれた「授乳の聖母」や「大天使ミカエル」がよく残っている。左側廊と身廊を分ける隔壁柱にも同じく13世紀の「聖グレゴリウス」が描かれ、右側廊と身廊を分ける隔壁柱には14世紀の「聖ベネディクトゥス」、それと向かい合うように(妹の)「聖女スコラスティカ」が描かれている。右側廊の壁面には、上下に「十字架降下」と「四聖人に囲まれた聖母の戴冠」が14世紀初頭に描かれている。そのほか16世紀の「聖女ルチア」、17世紀の「聖母子」と歴史の変遷とともに壁画は描き変えられてきたことがわかる。ちなみに創建当初は聖女アーガタに捧げられた教会であったが、のちに聖女ルチアに捧げられることになり、入口アーチの上にも聖女ルチアの象徴である「盆にのせた眼」のレリーフが刻まれている。</p> <p>④保存状況 奥の後陣部分に向かうにしたがって緑色をした苔の繁殖部分が広がり、壁画もまったく消失している。主として壁画の保存が良好なのは、入口に近い左右の側壁および隔壁柱に描かれた部分である。時代による描き重ねや、漆喰での塗りつぶし、一時的修復のために創建当時の壁画装飾の全体を把握することは困難であるが、いくつかの特色ある壁画断片は卓抜な描画技術によってマテーラ壁画史構築の基準となるものである。</p> <p>平面図</p> 		   	

No.19	マドンナ・デ・イドゥリス教会/サン・ジョヴァンニ・イン・モンテッローネ教会	Regione 州	Basilicata
Bas.04	Chiesa della Madonna de Idris e S.Giovanni in Monterrone	Comune 市町村	Matera
<p>①地理的位置 サン・ピエトロ・カヴェオーゾ教会広場の右上上に位置する。サツ・カヴェオーゾ地区にひとときわ高くそびえるモンテッローネと呼ばれる岩山を掘り抜いたこの教会へは、ブオツツイ通りから階段や坂道をジグザグに上ってもいいし、サンタ・ルチア・アッレ・マルヴェ教会脇の細い道から回り込んで行くこともできる。</p> <p>②建築に対する所見 モンテッローネと呼ばれる岩山の中で、2つの教会が接合している。小さな鐘塔がファサード右上にあるところから入った教会がマドンナ・デ・イドゥリス教会で、岩山を掘り抜いた洞窟部分だけでなく、部分的に凝灰岩の切石を積み上げて建設された2つの空間で構成されている。その主祭壇左手から伸びる、何の照明設備もない暗く細い通路を抜けたところがサン・ジョヴァンニ・イン・モンテッローネ教会で、一段高くなった内陣と広い後陣が特徴的なギリシア十字型プランの設計であったことがわかる。また、サン・ジョヴァンニ（洗礼者ヨハネ）の名前から、さらには「受胎告知」とともに「キリストの洗礼」が描かれていること、堂内に洗礼盤として利用されたいらしい石臼のような石盤があること、また石畳で舗床されていることから、ここが洗礼堂であった可能性は高いと思われる。ちなみに、連結されているマドンナ・デ・イドゥリス教会の聖イドゥリスも水にちなんだ聖人で、水の守護者、水先案内人として信仰された。</p> <p>③壁画に対する所見 マドンナ・デ・イドゥリス教会のバロック様式の祭壇(1804)上の壁画には、祭壇画として描かれた「聖母子」と「角の間に磔刑像が輝く白い牡鹿を見て改宗する聖エウスタキウス」は17世紀のもの。聖エウスタキウスはマテーラの守護聖人。サン・ジョヴァンニ・イン・モンテッローネ教会には13世紀の壁画「(上半身の)パントクラトルのキリスト」「受胎告知」「聖ヤコブ」「聖ピエトロ」「聖ヒエロニムス」「聖女アポローニア」「聖イドゥリス」などのほか、14世紀の壁画「聖ニコラウス」がよく残っている。</p> <p>④保存状況 マドンナ・デ・イドゥリス教会に描かれている壁画のほとんどが17世紀の壁画で、その保存状況はきわめて悪い。一方、サン・ジョヴァンニ・イン・モンテッローネ教会内に描かれた13-14世紀の壁画は、現存する部分についてだけ言えば、剥落や欠損は少なくないものの、黴や苔なども生えておらず、その状態は安定している。</p>		   	

No.20	原罪の教会	Regione 州	Basilicata
Bas.05	Chiesa (Cripta) del Peccato Originale	Comune 市町村	Matera
<p>①地理的位置 マテラ市から14kmほど南西の郊外にあるワインメーカーの広いブドウ畑を抜けたところで、グラヴィーナ・ディ・ピッチャーノ渓谷の崖に開いた自然洞窟を利用した教会。1963年に洞窟教会として発見されるまで、地元の羊飼いたちは「百聖人の洞窟」と呼んで、炎天下や急な雨などを避ける緊急避難的な羊小屋として利用していた。本来は、ベネディクト会系の修道院と関連した聖所であった。</p> <p>②建築に対する所見 自然洞窟を利用した教会だが、洞窟内の東側の壁面に切り型のニッチを3つ並べて後陣としたことがわかる。現在は電動シャッターで閉じられているが、採光は北側に開いた開口部から豊かな光が射し込んできていたはずである。現在の入口は崖斜面の少し手前にあり、そこを入れて直角に左に折れると、洞窟内の広間に下りるゆったりした階段がある。</p> <p>③壁画に対する所見 ベネヴェントのベネディクト修道会に属する画僧たちの筆による広範な主題を展開した壁画は、マテラでも最も古い9世紀に遡る。旧約聖書の「創世記」からの主題には「アダムとエヴァの創造」「エヴァの誘惑」だけでなく「光と闇の分離」も含まれており、新約聖書では「十二使徒」「大天使たち」「聖母子」などが、すべて大地から咲き乱れる多くの赤い花に包まれている。鮮やかな色彩とナイーブな表現で一躍脚光を浴びた洞窟は今、「原罪の礼拝堂」(Cripta del Peccato Originale)と命名されている。</p> <p>④保存状況 洞窟教会そのものは2005年にローマ中央修復研究所によって調査され、強い外光を遮断し、洞窟内への入場を制限するなど、保存管理体制は整備されているが、壁画面に対する総合的な診断調査及び徹底的な修復が早急に必要である。</p> <p>平面図</p> 